

光星 光田が殊勲打



第72回春季

東北高校野球



第1日

山田高、光星 準々決勝進出

第72回春季東北地区高校野球大会が10日、山形県で開幕し、ヤマリョースタジアム山形(中山町)と米沢市営野球場で1回戦6試合を行った。本県第2代表の八学学院光星が、盛岡大付(投手第1代表)を2-0で破り、第1代表の青森山田は山形城北(山形第3代表)に4-3で勝利した。第

3代表の青森北は聖和学園(宮城第2代表)に2-3で逆転負けを喫した。11日は両球場で準々決勝4試合を行い、青森山田は仙台育英(宮城第1代表)と、八学光星は学法石川(福島第2代表)とそれぞれ戦う。

(佐藤正悟、棟方好華)

県勢きょうの試合

(左のチームが一塁側)

- ◇準々決勝
- ▷米沢市営野球場
- 青森山田—仙台育英(10・0)
- 八学光星—学法石川(12・30)

北口、及川 零封リレー

【評】八学光星が序盤のリードを守り切った。二

回、押田小の四球と北口の安打で2死二三塁とする。光田が左中間に2点適時打を打ち先制。これが決勝点となった。先発北口は5回を投げ被安打5、2奪三振と力投した。継投した及川も4回を2安打に抑える粘り強い投球を披露。計4イニングで得点圏に走者を置いたが、味方の堅守にも支えられ得点を許さなかった。

光田「投手陣助けてい」

八学光星の光田の一打がチームに勝利をもたらした。二回2死二、三塁、「体が勝手に動いた」と、狙い球ではなかった高めの直球を左中間へはじき返し、2者が生還。結果的にこれが貴重な決勝打となった。殊勲の1番打者は「投手陣を助けたかった。チャンスの場面で一本が出てよかった」と笑顔。仲井監督も「一生懸命練習してきた選手(打てて)よかった」と褒めたたえた。

この日は投手陣も奮闘した。右肘の違和感から調整を

【八学光星 盛岡大付】2回表、八学光星2死二、三塁、光田が左中間に適時打を打ち2-0とする。米沢市営野球場

チャンスで発奮

続けていた先発北口は、昨秋の県大会以来となる公式戦での登板となったが、スライダ―とチェンジアップを軸に相手打線を手玉に取った。継投した及川は、打ち取るたびに雄たけびを上げる気迫あふれる投球で零封リレーを締めくくった。指揮官は粘り強く、最後まで諦めずに戦うことがチームに浸透していると思う。選手たちにとって意味のある試合になった」と評価した。

準々決勝は学法石川(福島)

(棟方好華)